

住民の「暮らしやすさ」につなげる町内会

私も講習に参加して勉強し、子どもたちに防犯指導をしています



子どもたち自身で地域の安全を考えるマップ作り

*犯罪や事故に巻き込まれやすい危険な場所や、安全な場所を写真などで示した地図

境田町町内会
みつあき
照井 光昭 副会長



境田町町内会

安全で、住民が活動に参加しやすい「まち」づくりを工夫

境田町町内会では、子ども会を中心に大人も一緒になって「地域安全マップ」*を作成しています。大切にしているのは、町内の「防犯パトロール隊」や子どもたちの登下校の見守り活動などで指導する大人が、子どもたち以上に、防犯の重要性を主体的に勉強していること。このような大人の姿勢が、子どもたちの防犯への意識を高め、マップ作りにも生かされています。それが評価され、県の地域安全マップコンクールで4年連続最優秀賞に輝いています。

また、限られた町内会費を有効に活用するため、参加率が低い行事を見直し、住民が参加しやすい行事に変更しています。例えば、「ふれあいさんさ踊り」は、太鼓の担い手である小学校高学年の子どもたちが塾などで練習に参加できなくなったため、多くの人が楽しめる出店などを開く「夏まつり」に変更。参加者が3割以上増え、住民の積極的な参加を促すことに成功しました。

青山地区

商店街も企業も巻き込んで、安心でにぎわいのある地区を目指す

青山地区では、盛岡ふれあい覆馬場プラザ(青山二)を拠点に、さまざまなイベントを開催しています。「青山雪あかり」では「コスプレ撮影会」や「ミニ四駆大会」などの新しい企画も取り入れ、地区外からも多くの来場者を集めています。

地域づくりには住民だけでなく、地域のあらゆる団体の協力が不可欠です。「青山さくらまつり」や「赤レンガまつり」でも、地域の小中学校や各団体と連携し、それぞれの発表の場を設け、参加者の増加につなげています。また、認知症への理解を深め、徘徊者を発見した際の声掛けから保護までの一連の手法を学ぶ「認知症声掛け保護訓練」には、お店や企業にも参加してもらうなど、地域全体で「安心な住みやすいまち」を目指して活動しています。

自分が住んでいる地域以外の活動にも目を向けてみると、地域活動を盛り上げるヒントになるかも♪



青山地区まちづくり協議会
あきしの きょうこ
秋篠 京子 事務局長

多様な主体と連携しながらにぎわいを創出する地域づくり組織*

*「地域づくり組織」とは、地域にあるさまざまな主体(町内会・自治会のほか、企業やNPO団体など)が対等な立場で参加する組織のことです

赤レンガまつりでは、吹奏楽の演奏やフリーマーケットなど、誰でも楽しめるイベントが開催されます



金曜ひろばでは、室内で座ってできるエクササイズやマスク作りなど、誰でも参加しやすい活動をしています

誰もが自由に入出入りして交流できる「金曜ひろば」を開催

高松四丁目町内会

公民館を「地域のよりどころ」にして福祉の向上に取り組む

高松四丁目町内会では、「気軽に立ち寄って話ができる場所が、近所にはいい」という住民からの声を受け、民生委員の協力のもと毎週金曜に公民館を開放する「金曜ひろば」を始めました。ここでは、世代を問わず多くの地域住民が集まり交流するほか、住民同士で気軽に情報交換ができ、高齢者や障がい者、子育て世代など、それぞれが抱えている悩みや課題を共有し合える場所となっています。

一方で、住民が減少し、継続が難しい活動も出てきています。例えば、班ごとの当番制で行ってきた公民館の清掃活動は、班によっては参加者が少なく、負担が大きくなっていました。そこで班の当番制をやめ、参加できる人だけで清掃した結果、作業を早く終わることができました。前例にとらわれず、やり方を変えることで効果的な活動につなげることができました。



松園雪あかりは、これまでの地域活動の集大成。第2回は、より多くの人に楽しんでもらえることを目指します

子どもたちのアイデアで生まれた「雪中パン食い競争」



松園地区まちづくり委員会
ちゅうじ
武田 忠次 総務広報部部長



地元の子供たちによる、太鼓演奏のステージ発表

松園地区

地区内外から声や力を集め、1600人が訪れるイベントを開催

「松園夏まつりに加えて、冬にも行事をやってほしい」という子どもたちの要望から、昨年実現した「松園雪あかり」。発案から開催までは半年ほどしかありませんでしたが、雪像や1200ものスノーキャンドルを飾ったこのイベントは、2日間で地区内外から約1600人が訪れるほど盛況でした。

初開催のイベントとは思えないほどの成功を取めた秘訣は、人を巻き込むこと。計画の段階から、子どもたちにアンケートをとったり、イベント当日には大学生ボランティアに運営に協力してもらったりと、地区内外の多くの人が関わりました。その結果、誰もが楽しめる工夫が盛り込まれた行事となりました。松園の魅力を多くの人に知ってもらうため、本年度の雪あかりもさまざまな工夫を凝らしていきたいです。

地域で楽しむ

安心のまちづくり

活動スナップ

世代間の交流に

豊かな暮らしづくり

● 松園地区 ガーディングツアー

● 境田町 ふれあい夏まつり

● 青山地区 認知症声掛け保護訓練

● 高松四丁目 高回まつり

市長コラム

気軽に参加することが地域活動のはじめの一歩

市内の町内会・自治会や地域づくり組織では、実に多種多様な活動に取り組んでいます。ここで取り上げた活動内容は一例です。皆さんがお住まいの地域でも、様々な活動が展開されているはず。ぜひこれを機会に、身近な地域活動に関心に向けてみてはいかがでしょうか。今まで地域活動に参加したことがない人も、新たな交流のきっかけになるかもしれません。

まずは気軽に参加してみましょう。

盛岡市長
谷 藤 裕 明



好摩地区

ごみの不法投棄地の整備を機に、住民の地域活動への興味が高まった

好摩地区ではかつて、地区内の湿原に大量のごみが不法投棄され、長年問題になっていました。そこで協議会が解決に乗り出し、ごみの撤去を行い、さらに雑草の刈り払い、桜やエゾエノキなどの植樹、廃材を活用した東屋やベンチの設置などに取り組み、4年がかりで公園として整備しました。こうして作られた公園でお花見会を開催するなど、新たな地域交流の場にもなっています。このように、住民が自ら課題解決に取り組んだことで、他の活動でも協力し合う雰囲気ができ、地域活動に興味を持って新たに参加する人も増えています。この公園は地域の安全や暮らしやすさ、住みやすさを自分たちの手で作り上げた証として、これからも大切に守り続けていきたいです。

今後はアジサイやヤマツツジなどを植えて、一年を通して花に囲まれた公園にする予定です



ごみの不法投棄地を地区の力でミズバショウが咲く公園に



好摩地区まちづくり協議会
ゆきお
藤井 幸夫 前会長

- ミズバショウ公園の見どころ
- 山から流れ込む沢水に、200株以上のミズバショウが群生(見頃は4月下旬)
 - 公園の周りに植樹された桜
 - 廃材を活用した東屋やベンチ
 - 国蝶のオオムラサキが住むエゾエノキの木
 - 子どもたちが作った巣箱をねぐらにするキツツキ

